

※「かだる」という言葉は、岩手県の方言で「参加する」、「集う」、「加わる」などを意味します。

「子どもたちの笑顔を増やし、地域に元気を」

藤井 ^{さとる} 了さん（釜石市）70歳

輝
く
シ
ニ
ア

東日本大震災後、子どもたちに遊ぶ場を提供したいとの思いから、釜石市甲子町の休耕田を開放し、手作りで私設の公園を整備した藤井了さん。公園の整備は海外ボランティアや多くの支援者の協力で行われました。公園には多くの来園者があり、休日は家族連れで賑わっているほか、各種イベントが開催されるなど、文化・人的交流の拠点にもなっています。

震災後、釜石市内の多くの公園に仮設住宅が建てられ、子どもの遊び場が不足している状況が続いていました。藤井さんの自宅周辺にも仮設住宅が建つようになったことから、地域の子どもたちに遊ぶ場所を提供しようと、コスモスを咲かせていた自宅の敷地（約3,000㎡）に公園を整備することを平成23年10月に計画。その頃、復興支援のために釜石市を訪れていた海外のボランティアグループがこの計画に賛同し、約1年がかりで完成。この場所にコスモスの花を咲かせていたことから「こすもす公園」と

名付けました。その後、「公園の前の汚れた工場の壁を見ると、津波の時の景色を思い出す」という子どもがいて、藤井さんは「工場の壁面に子どもたちが夢や希望が持てるような絵を描こう」と声をあげたところ、工場の協力もあり、人が人を繋ぎ、タイ在住の画家が1年がかりで壁画を制作。この壁画の話は絵本にまでなりました（「あしたがすき」ポプラ社）。

こすもす公園は、子どもの遊び場のほか、付近の老人ホームの入所者の散歩コースにもなるなど、住



藤井了さんと木製の手作りのすべり台

民の憩いの場となっています。また、市内外の保育園児らも遠足で訪れるなど、利用者は年間4万人を超えています。

藤井さんは、10年ほど前に県職員を定年退職後、宮司の資格を取得。甲子郷日月神社の宮司も務めています。妻のサエ子さん（72）は、平成19年から「レストランこすもす」を開店。レストランの眼前には、こすもす公園と「希望の壁画」が広がっています。

また、藤井さんは、地元の名産「甲子柿」の普及にも尽されており、甲子柿を守る会の会長も務めています。「現役時代よりも忙しくなった」と顔をほころばせる表情には、充実した日常が垣間見えます。



こすもす公園のシンボルでもある大壁画「希望の壁画」（高さ8m、幅43m）

セミナー報告（イオンタウン釜石で開催）

平成 28 年 11 月 25 日（金）、イオンタウン釜石でいきいきシニアセミナーを釜石支援センター望との共催で開催しました。

当日は釜石市と近隣の大槌町などから 40 名が参加。講師は、自身も被災者で復興支援や地域づくりに取り組んでいる、NPO 法人遠野まごころネット理事長の臼澤良一さん（68）。「高齢者は地域のフロントランナー」と題して講演しました。

講演では、遠野市土淵町・米通地区の住民が平成 26 年から始めた「米通（こめどおり）結の郷」活動を紹介。高齢者が地域を活気づけようと奮闘している様子について、映像を交えながらお話がありました。

米通地区は、遠野市の北東に位置し、野山や田畑に囲まれた農村地帯。総戸数 7 戸、人口 21 人、大半の住民は高齢者で平均年齢 69 歳の小さな集落です。ここに、NPO 法人遠野まごころネットなどのボランティア団体の協力のもと、豊かな自然環境を地域の活性化に生かそうと、水力や太陽光による自然エネルギーラボ（実験所）を建設。水車を再現し、1964 年まで自給していた水力発電を復活させました。水力による電力はわずかで灯された明かりは微小で



講師の話に耳を傾ける参加者

したが「やればできる」という住民の心に芽生えた情熱の灯は大きく、この成功体験をきっかけに様々な事業を展開。不要な小屋を改造した「爺・婆カフェ」の開設、地元製品の加工・販売など。活動をきっかけに食品衛生管理者の資格を取得した 70 代の高齢者もあり、次はどぶろく醸造へと夢を膨らませています。米通地区の活動は全国に知れ渡り、官公庁や企業、海外からの研修生や視察者などが訪れ、交流人口は年々増加。まさに高齢者が「地域のフロントランナー」として地域を活気づけ、多世代の交流も生み出しています。

臼澤さんは、「人は誰もが、趣味でも遊びでも、目標があれば生きがいとなり、生活が豊かになる。高齢になっても目標を持つことが大切。高齢者は地域のフロントランナーとして、常にこうしてはいられないという気持ちを持ち、一つでも二つでも何かに取り組んでほしい」と話しました。

講演に引き続き、高齢者施設への慰問活動を行っている岩泉町の岩上敏一さん（72）が大道芸を披露。楽器演奏や軽妙な語りが会場の笑いを誘い、和やかな雰囲気うちに閉会しました。



「米通結の郷」活動について話す臼澤良一さん

セミナーを開催します！

～ベストセラーの発掘、本のポップ広告などで「カリスマ店長」として全国に知られる伊藤清彦さんの講演会～

当サポートセンターでは、平成 29 年 1 月 26 日（木）に、岩手県立図書館との共催でセミナーを開催します。一関市立一関図書館副館長 伊藤清彦氏による講演を予定しています。テーマは「高齢期におススメの本」「読書を高齢期の生き方に生かす」「隠れた人気本」など。時間は 13 時半～15 時半。会場はアイーナ 4 階岩手県立図書館ミニシアター。定員 50 名。参加費無料。申込・問合せは、岩手県高齢者社会貢献活動サポートセンター（TEL 019-606-1774）までご連絡ください。

（伊藤清彦氏プロフィール）

昭和 29 年一関市生まれ。東京都内の書店に勤務後、平成 3 年に盛岡市・さわや書店本店の店長を務める。ポップ広告を先駆的に手掛け、ベストセラーの発掘などで「カリスマ店長」として全国に知られる。



アマチュア・マジシャンズ・クラブ大船渡（大船渡市） 岩城 恭治代表 会員9名

地元のNPO法人が開催した「社会貢献活動入門講座」でマジックを学んだ受講者が、その技術を社会貢献に生かそうと平成26年に設立。専門の講師を迎えて行う年数回の研修会と日頃の会員同士の交流研修により技術の向上に努めながら、年間を通じ被災地の仮設住宅・災害公営住宅、高齢者施設などを訪問してマジックを披露。地域には他にマジックの団体がなく、依頼も多く、住民や入所者に喜ばれています。



いきいき健康推進隊（紫波町） 長谷川 良久代表 会員32名

シルバーリハビリ体操を普及させ、高齢者が健康に暮らせるようにすることを目的とし、平成28年に設立。高齢者向けに開発されたこの体操は、関節機能の維持・向上に効果的な「いきいきヘルス体操」と、筋肉ストレッチの「いきいきヘルスいっぱつ体操」で構成され、全国各地で取り入れられています。この体操の指導者として県の認定を得た会員は、町内全域に普及させるため、町内の高齢者サロンや各種集會に出向き指導しています。



慶謡会（滝沢市） 佐々木 桂造代表 会員7名

歌や踊りが好きな仲間が集まり「地域の高齢者に楽しみと生きがいを」との思いから平成23年に設立。高齢者施設を訪問し、誕生会、新年会などで歌や踊りを披露しています。また、歌謡と民謡のレッスン（誰でも参加可）を月1回開催するほか、引きこもりがちな人や一人暮らしの高齢者を対象にしたカラオケ大会の開催や、老人クラブの演芸大会等の演技指導のほか、地域の清掃活動にも取り組んでいます。



シルバーガールズ（岩手町） 千葉 静子会長 会員10名

高齢者の孤立や閉じこもりを防ぐことを目的に、地域の活動に意欲を持った仲間が平成28年に設立。地域には喫茶店等の気軽に立ち寄れる場所がないと以前から声が上がっていたことから、川口地区にある岩手町働く婦人の家に「ご近所支え合いカフェねまーれ」を開設しました。月2回の開催で、コーヒーやお茶を飲みながら自由に語り合う場とするほか、各種講話やそば打ち体験、保育園児との交流なども行っています。



千厩着物虫干し会（一関市） 伊藤 京子代表 会員13名

着物を活用した地域の活性化を目指し、着物愛好者で平成25年に設立。自宅で眠ったままの着物に袖を通し、気軽に外出できる機会をつくろうと、毎年10月に「千厩きもの物語」を開催。イベントでは、着付けの技を曲に乗せて披露する「着つけ舞」の上演、琴演奏、着物掘り出し市、馬車運行など、多彩な催しを行うほか、お気に入りの着物を着た参加者が、通りや周辺施設を自由に散策し、地域に賑わいをもたらしています。



（ここで紹介したすべての団体では、事業の一部に、公益財団法人いきいき岩手支援財団の「ご近所支え合い活動助成金」が活用されています。）

介護の悩みや不安を和らげ安心して介護を続けられる地域を目指し、軽米町のゆったり介護の会（竹澤ユヲ子会長、会員 13 名）は、町内の各地で在宅介護者等を対象に「介護者のつどい」を開催しています。在宅介護に携わる家族や介護に関心のある人が参加して介護の悩みや疑問点などを情報交換し、介護負担の軽減や生きがいづくりにつなげています。また「つどい」には、町内の介護保険事業所の職員や医療関係者なども加わり、介護や医療等に関する正しい知識の普及も図っています。

この「つどい」は、竹澤会長が在宅での介護を経験し、「在宅で介護をする人は孤独に陥りやすい」ことや「介護方法が正しいか不安に感じる」ことなどから、「在宅介護者の交流の場が必要」と町に話を持ちかけたことがきっかけ。その後、軽米町地域包括支援センターの協力を得て、毎月第 3 水曜日に軽米町防災センターで開催してきました。しかし、会場



在宅介護者の交流の様子（軽米町戸草内公民館）



ゆったり介護の会のみなさん（前列右から 2 人目が竹澤ユヲ子会長）

から離れた地域で在宅介護をしている人は、「介護で家を離れられない」「交通手段がない」などの理由で思うように参加できない人も多く、参加者が限られていました。そのため今年度からは、ご近所支え合い活動助成金の採択を受け、会場を軽米町中央公民館へ移したほか、出張形式での集いの場を、3 地区（笹渡地区、戸草内地区、観音林地区）で始めました。在宅で介護をする参加者らは、悩みや気持ちを共有・共感し、交流を図っています。

また同会は、会員の大半が在宅介護の経験者ということもあり、参加者から出された介護の相談に対して、実体験をもとにした対処方法や工夫の仕方などを紹介し、語り合い、親睦を深めています。

竹澤会長は「今後は、いつでも誰でも気軽に集えるような場所にすることが目標」と話しています。

（この事業の一部に、公益財団法人いきいき岩手支援財団の「ご近所支え合い活動助成金」が活用されています。）

平成 29 年度ご近所支え合い活動助成金第 1 次募集のご案内

岩手県高齢者社会貢献活動サポートセンターでは、平成 29 年度ご近所支え合い活動助成金の申請を受け付けています。第 1 次の締切は、平成 29 年 1 月 31 日（火）必着。申請についてのお問合せは、当サポートセンターまでご連絡ください。

※ご近所支え合い活動助成金とは、県民が共に支え合う地域貢献活動を支援するための助成制度です。概ね市町村単位もしくは市町村の一部で行う、①高齢者が主体となって行う活動、または、②高齢者等をサービスの対象とした活動、を対象としています。助成額は、初年度が上限 30 万円、2 年目、3 年目がそれぞれ 15 万円まで。下限は 5 万円（最大 3 年まで事業の継続が可能。但し、毎年度申請が必要）。

※本助成金の詳細は、ホームページでもご覧になれます。（「岩手県高齢者サポートセンター」で検索）